

デギョンと僕

グループ B 齋川 聖

1. 第一印象

今回、グループ学習で同じ班になった韓国人留学生キムデギョン君を一言で言うと、場を和ませる明るいムードメイカーと言う言葉が一番しっくりくる気がします。最初にグループに分かれて話合いを始めた時、真っ先に自己紹介を始めて堅かった空気を破ってくれた。この時、日本語の上達ぶりの高さに驚いた部分もあった。確かにたどたどしいと言えばたどたどしいのだが、自分たちにしっかりと伝えたいことを伝えられている、そして、ユーモアを加えて話す感じは言い過ぎかもしれないが日本人と会話しているようにも思えた。

話し合いの結果、散歩の行先はボーリングに決まった、、、、。之についてもデギョンが意見を挙げて決まったことだ。日本に来て一度も行ったことがないという。確かにスコアについては散々な結果だった。ボーリングを始める前には、罰ゲームまで自分で言って決めようとしていたのに散々な結果に終わってみれば、自らに罰ゲームが降りかかることになるかとテンションを上げてごまかした。お調子者だった。でもグループのカメラ係りを引き受けてくれるなど責任感も持ち頼れる面もあった。

2. 話題

自分とデギョンが最初に出会った時の印象が最も色濃く出ていると思いき、この最初の企画ことを話題にした。それにデギョンとは授業のたびに雑談などをしていて普段の学校生活もしくは授業の内容を考えてみても、やはり初めて話した時のことほど印象に残っていると思えるからこそこの話題を選ぶきっかけになったんだと思う。

3. 話し合いの結果

3.1 散歩が終了してからも散歩をした時のグループは継続されて、散歩の時には聞きだせなかったこれまでのデギョンの人生とまでは言わないが、デギョンの経験を中心に話を聞いてみた。

まず、最初に聞いてみたことは、高校の学生生活の中でどんなスポーツをやってきたことについて聞いてみた。すると、デギョンは高校の時はスポーツをやっていないと応えた、「高校自体に部活動なかったのか？」と尋ねると高校に部活動はあったようなのだが、「自分は理系クラスに所属していたので部活には入部しなかった。」と。それでも体を動かすことが嫌いでないデギョンは週末などには友人達とバスケットボールやキャッチボールなどをしたりしていたそうだ。先日、校内でデギョンに偶然会ってその時自分は、グローブとボールを持っていてデギョンと会話したあと広場に行ってキャッチボールを始めた。デギョンはキャッチボールが上手であった。この時、スポーツをそつなくこなすイメージが出来た。

次に聞いてみたことはお酒について聞いてみた。この話題に切り替えた時、デギョンはイキイキしているように見えた。日本に来てか何度かは週末に Bar などに行っ

てカクテルなどのお酒を飲んでいるそうだ。韓国にいるときはマッコリを飲んでいて、そうだが日本のマッコリは不味いと言って若干不機嫌そうに見えたような気がした、そして、今度韓国に遊びの来るようなことがあれば本場のマッコリを飲ましてあげると言われた。その時の彼の笑顔は輝いていた。

最後に、デギョンの恋愛事情について聞いてみた。単刀直入に聞いてみたところ案外あっさりと答えてくれたことについて驚いた。それでも教えてもらったのは日本での恋愛事情だけであった。それによると、すでに日本に来てから6人もの女性に告白されているという驚愕のないようであった。それとこんなことも言っていた、バイト先の常連のお客様の中に自分目当てで通い詰めている人がいるとも話してくれた。デギョン曰く一時期韓流ブームが訪れた時の名残が残っているのではないかと言っていた。それでもデギョンは自分のために来店してくれるお客さんには感謝しているそうだ。

3.2 前回の話の続きというテーマであったが、友達と話すのにわざわざそんなテーマを決めなくても話せる。というわけで、日常会話をしていた。前々から誘われていた飲みに行く話の内容を話した。デギョンは西口を出て少し歩いたところにあるBarの中で飲んだジャック・コークについて教えてくれた。あまりお酒の種類について詳しくない自分に親切に教えてくれる一面を見せるなど上記でも記したように頼れる面があった。他にも自分が講師として仕事している秋田市内の女子校の文化祭に行くと話してくれた。そして、文化祭で行われていたガールズバンドによるライブで日本のアニメに使われている曲が演奏されたそうなのだが、その演奏のクオリティの低さにガッカリしたと嘆いていた。韓国にいるときにそのアニメを見ていたそうで楽曲の演奏にはかなり期待していたみたいだった。その時、デギョンに「学生の文化祭で演奏されるものに期待しているとがっかりするよ。」と言うと「自分の通っていた高校には文化祭のようなものはあったけどこんな風にバンドの演奏のようなことがなかったので楽しみにしていたんだから仕方ないんだ」と言われた。この時、子供のような一面も持ち合わせているんだと認識させられた。

3.3 そして、最後の話し合いの時デギョンと話していて初めてデギョン自身のメンタル面についてはしてくれた。正直うれしかった。デギョン曰く自分は友人などと話していて友人が何の気なしに発した一言を深刻に受け止めてしまう悪い癖があると教えてくれた。その話を聞いたとき今までデギョンと話をしていて途中でデギョンを傷付けてしまったことはなかったのかと今までの接し方を振り返ってしまうほど深刻そうに言われた。そして、こんなことも言っていた、感情の起伏が激しいと本人は言うのだ。これに関しては、前述にも記している最初に行われた散歩の中でそのような兆候を見たような気がした。けれども、感情の起伏が激しいことは何も悪いことだとは思わない。それだけ自分の感情をはっきり表現できるなんて正直羨ましくも思ってしまう。確かに成長していくに連れて感情を表に出せる場はどんどん

減っていくのだしまだ学生でいられる今のうちに存分に感情を出した方がいいと思えた。

4. まとめ

デギョンさんはここまでの話し合いで分かった人物像としては、子供のような大人な印象を与えられた。自分でも何を言ってるのかわからないがその言葉が当てはまる気がする。このように思えたのは、デギョンはリーダーシップとまでは言わないが周囲の人を引っ張るような行動をとるなど率先して前に立ってくれる一面もあれば、勝負ごとにおいて自分が負けたりすると本気で悔しがっているなど子供のような一面も併せ持つ人間性を持ち合わせている場面をこれまで見てきたからだとおもう。けれど、デギョン曰く自分は大人なのだと言っていた。

5 クラスについての感想

5.1 学んだことについて、異国の文化を持った人と話す機会がこれまでの人生の中でなかったため、異国の文化に触れて自国との相違点について話しているときなどは興味深い話を聞いて自分の中の人生観に新たなものが生まれたような感覚を覚えた。